

ことばに親しむ環境づくりに関するアンケート結果より

年長児保護者
のみなさまへ

小学1年生になると、文字の読み書きや計算などの学習が始まります。幼児期に大切にしたいことは、子どもの興味や関心を十分に広げながら、文字や数量に関わる感覚を豊かなものにすることです。このような感覚が、小学校における文字や数量の学習の生きた基盤になります。幼児期からのことばに親しむ環境づくりを通して、小学校における学習の土台づくりを一緒にていきましょう。



ことばに親しむ環境を整えましょう！

- 本を読んだり、読み聞かせが好きなこども・・・65%
- 家庭での読み聞かせ 毎日及び週に数回・・・64%
- ことば遊びの頻度 ほぼ毎日 週に数回程度・40%
- お子様と一緒に遊ぶ ほぼ毎日・・・・・・67%
週に数回程度・・・19%
- 図書館・図書室・移動図書館などの利用
毎週利用及び月に2~3回及び月に1回・・・34%
- 家庭にある絵本の冊数 20冊以上・・・74%
- 手紙やカードなどを書いて遊んだり渡したり
好きでよくやっている・・・50%

読み聞かせやことば遊びなど楽しい活動をとおして、ことばが豊かになります。子どもたちが自分で文字を読む力を育てることが学力の向上にもつながります。
お子さんの発達段階や興味関心に合わせて、ことばに親しむ環境を整えましょう。



本や文字にふれる機会が少ないお子さまもおられるようです。お子さまとの何気ない日常の会話や遊びをとおして、読み聞かせや読書、ことば遊び等をお子さまと楽しんでいただけたらと思います。

保護者の自由記述の中に参考となる内容がありましたので、一部紹介させていただきます。

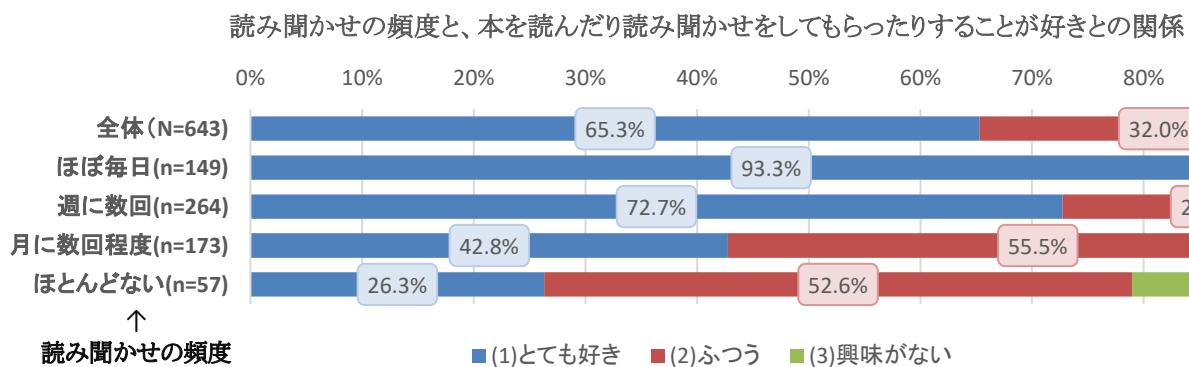
【ことばに親しむために、幼児期に重要なこと】 (保護者の自由記述より)

- 絵本を一緒に読んだり、歌を歌ったり、話をする時間を少しでもいいから毎日作ることが大事だと思う。
- 絵本の読み聞かせを通して言葉に親しむことで、想像力や感性を豊かにすることにも繋がると思います。
- 日々の暮らしや自然の中で植物、生き物の名前や道具を口に出して対話・会話することを重要視しています。
- 友達との手紙交換で文字に興味を持ち、自分も書きたいと練習を始めたので、人と関わる上で文字が媒体になる事が大切だと感じた。
- 子どもが絵本や図鑑が身近なものとなる環境づくりこそが大切なのだと思います。
- 「あー」とかだけの言葉にも「そうだね、車だね」などと言でも丁寧に返事をすること。話そうとして言葉に詰まるときも、大人が話してしまわないでじっと待つこと。

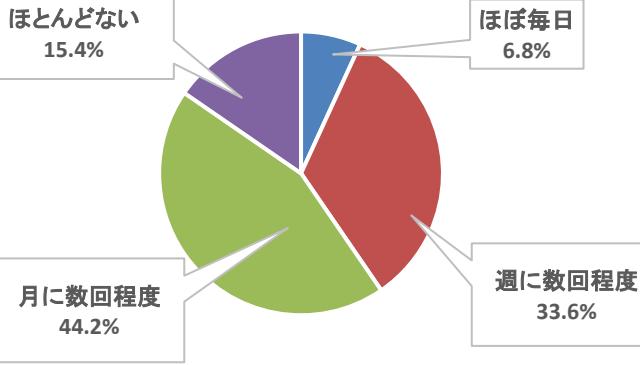
主なアンケート結果と分かったこと・取り組みたいこと

「読み聞かせ」が多いほど、「本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりすること」が好きな子どもの割合が高い傾向があります。

親が本を読む姿を子どもに見せることも、子どもが本に親しみをもつことにつながります。



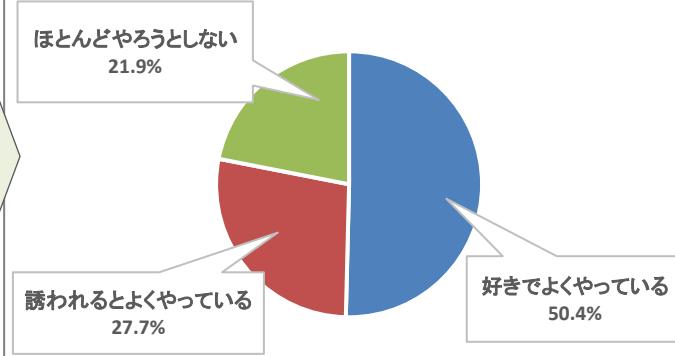
5 ことば遊びの頻度



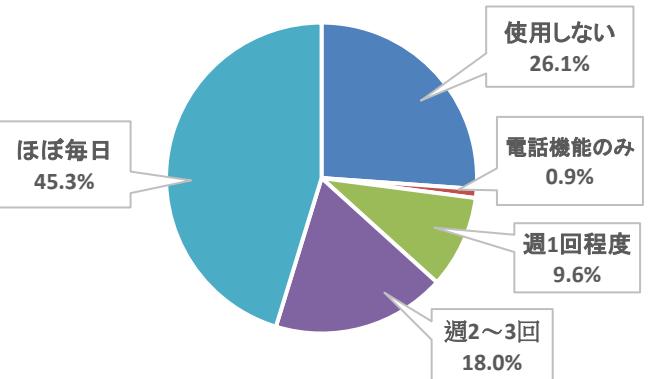
多くの家庭で、子どもとの遊ぶ時間をつくられています。

しりとりやかるた、クイズやごっこ遊び、歌と一緒に歌う、手紙やカードを書いたり渡したりするなど、ことばに触れる機会をさらに増やしていきましょう。

6 手紙やカードを書いたり渡したりすること

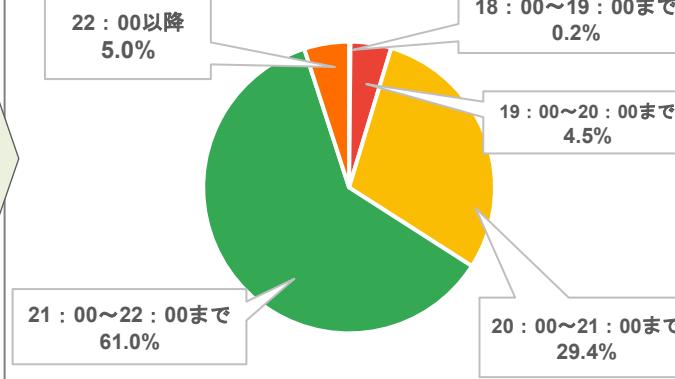


8 お子様がスマホ・タブレットを使う頻度



スマホやタブレットは、ことばに触れる大切なツールです。使う頻度や使用時間が年々増加しており、就寝時刻が遅くなり生活リズムが乱れたり、視力低下を招いたりするなど、健康への影響が懸念されます。使い方のルールを決め、適切に活用するようにしましょう。

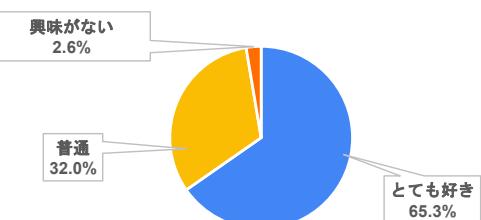
15 就寝時刻



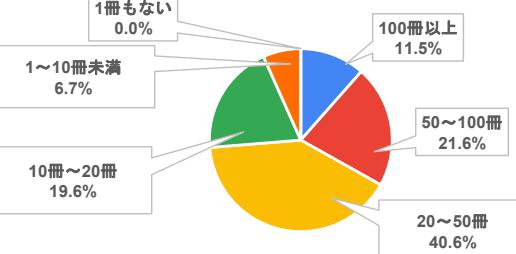
令和7年度 言葉に親しむ環境づくりに関するアンケート結果 全体のようす

回収率 48.2 %

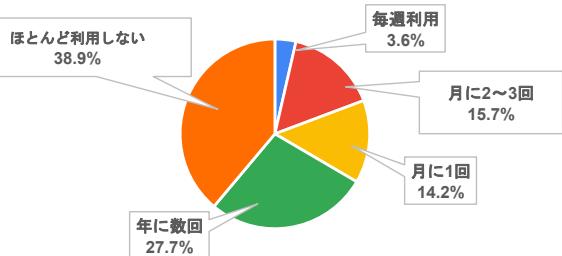
1 本を読んだり読み聞かせが好き



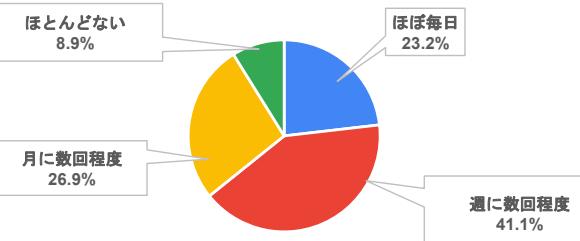
2 家庭にある絵本の冊数



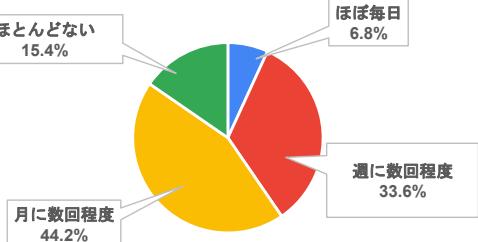
3 図書館・図書室の利用



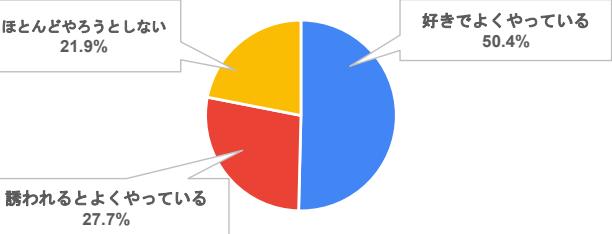
4 読み聞かせの頻度



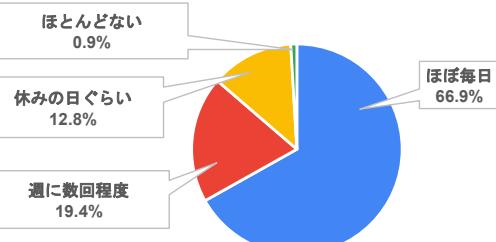
5 ことば遊びの頻度



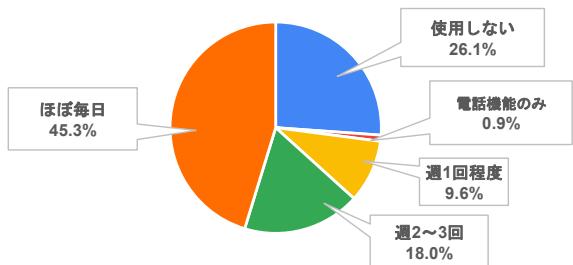
6 手紙やカードを書いたり渡したりすること



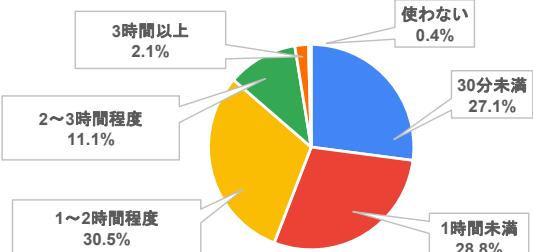
7 お子様と一緒に遊ぶ頻度



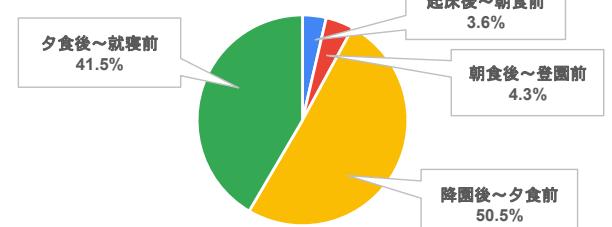
8 お子様がスマ・タブレットを使う頻度



9 スマ・タブレットを使っている時間

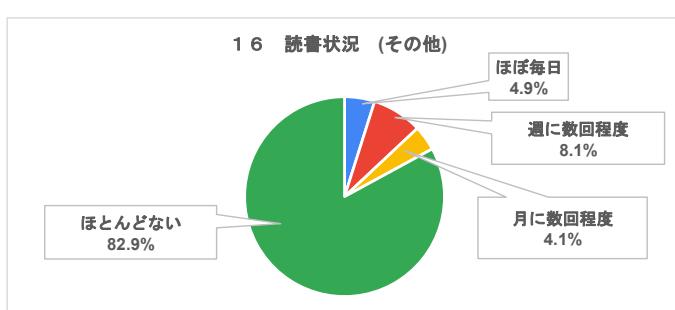
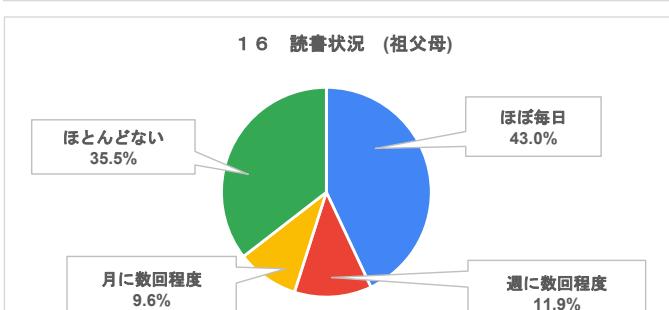
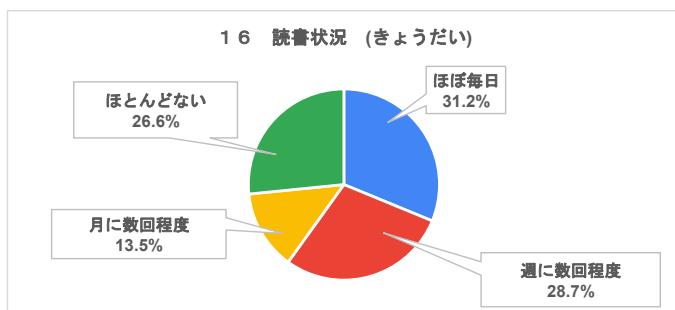
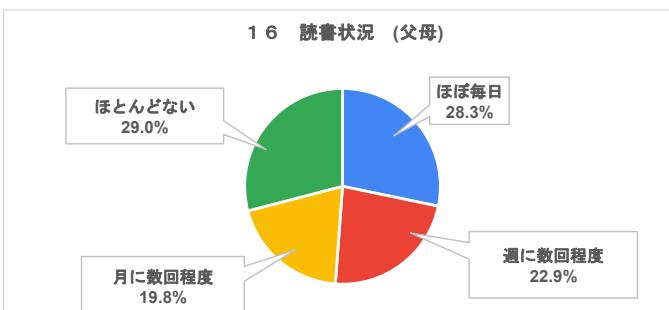
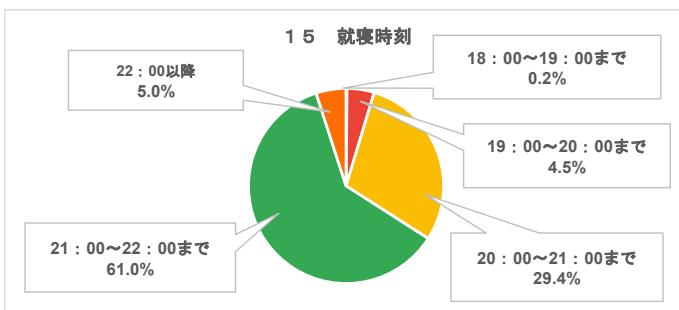
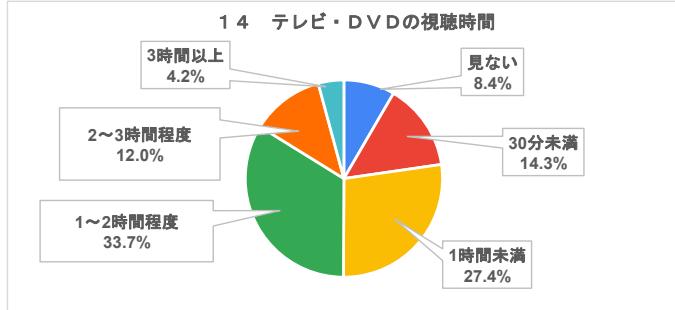
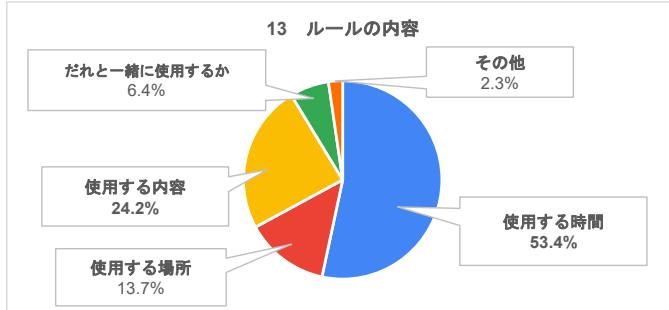
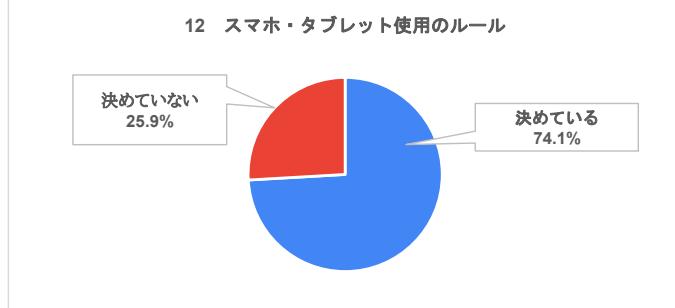
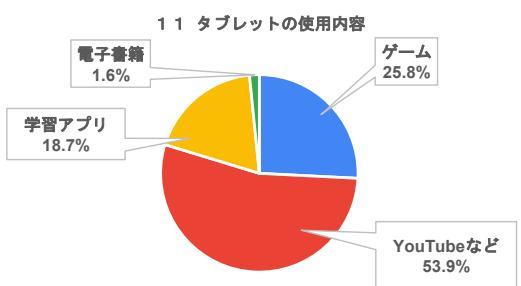


10 スマホ・タブレットの使用時間帯



令和7年度 言葉に親しむ環境づくりに関するアンケート結果 全体のようす

回収率 48.2 %



(問17)

お子様がことばに親しむために、幼児期には、どのようなことが重要だと思われますか。

(自由記述)

※内容にそってキーワードを設定し分類しました。一部紹介させていただきます。

【毎日の会話】

- 家族で会話をたくさんすること。色々な大人とたくさん会話をする。
- 子どもに対することばかりではなく、夫婦の会話も多く持つこと。
- 日々の暮らしや自然の中で植物、生き物の名前や道具を口に出して対話、会話することを重視している。
- 家族が豊富なことばで日常会話をすること。正しくことばを使い会話すること。

【子どもの話を聞く】

- 子どもの話をしっかり聞いてあげること。
- 子どもの話を楽しそうに聞く。リアクションする。
- 自分のことばで返事しないといけないような質問をする。

【読み聞かせ】

- 両親や祖父母が言うことばは耳に残るので、絵本の読み聞かせが重要。少しずつ一緒に読むと、覚えも早い。
- 自分の好きな（お気に入りの）絵本を見つけて、誰かに読んでもらったり、自分で声に出して読んだりして、色々なことばに触れていくことが大事。また、絵本等の挿し絵を見て、ことばを想像してみる。
- 公民館などで絵本を読んだり、年上の子どもに絵本の読み聞かせをしてもらったりする。
- 絵本の読み聞かせを通してことばに親しむことで、想像力や感性を豊かにすることにも繋がる。なるべくたくさんの絵本に触れる機会をつくることが大切。

【絵本や本を読む】

- 自分で本を読んだり読み聞かせをしてもらったりしながら、いろいろな本に触れること。
- 絵本と一緒に読んだり歌を歌ったり、話をする時間を少しでもいいから毎日作ることが大事。

【ことば遊び】

- カードやカルタみたいな遊びで文字に触れること。
- しりとりやマジカルバナナ的なゲームを家族でする。
- しりとりやなぞなぞなどのことば遊び。
- ことばを楽しく覚えられるように遊びに取り入れること。
- 親が手紙を書き、手紙を貰う喜びを知ることで自分も書きたいと思うこと。

【絵本が身近にある】

- 絵本との出会い。
- 絵本が身近にありすぐに触れることができる環境。
- 絵本を好きになること。好きな物を見つけて、それに関する図鑑等を大人と一緒に見たり一人で見たりすることを楽しむこと。

【文字やことばに触れる】

- 文字が読めることが楽しいと感じる気持ち。
- たくさんことばのシャワーを浴びせること。本をたくさん読むこと。
- 意図的に本や文字と触れ合う機会を持つ。
- まちなかで見かけた文字を読めた時、大きさに褒めて興味を持たせる。
- 早期から文字に興味を持つように、あいうえお表を目につくところ(リビング等)に掲示してみたり、お絵描きや塗り絵をする延長として、ひらがな帳に取り組んだりするようにしている。
- 無理強いせず、文字やことばに興味を持ち始めたタイミングを逃さない。自分の名前のひらがなを一文字ずつでも本から探すなど、遊びの要素も入れながら文字に触れ、文字からことばへ興味を持たせ、ことばに親しむ遊びや学びを継続する。

【コミュニケーション】

- 親子のことばでの楽しいコミュニケーション。
- 大人や、子どもとのことばのコミュニケーションが必要。
- 親と子のコミュニケーション(ことば遊びだけでなく、普段の会話も含めて)。
- 信頼できる大人との情緒的な関わり合い。

※他にもたくさんのお答えがありました。ありがとうございました。